

(1) 第5回 学校力育成会議 (H21.5.19)

「富士宮の子どもたちの豊かな心や健やかな体を育てるには、どうしたらよいか。」

1 小学生から最後までやり遂げた成功体験を積み上げることが大切である。

- ① 自尊感情が育ち、中学生になっても夢に向かっていける子どもにつながるのではないか。そのためにも、地域で育てていくためのアクションプランが必要になってくる。
- ② 読書を活用していったらどうか。そのための図書館のあり方や、本の関わらせ方を考えたい。
- ③ 子どもは親とは全く違うものと考え、自分に選ばせることや自分のよさを見つけられるような環境を整えることが必要である。
- ④ 中学生になると他人の評価が、本人の気持ちに大きく影響を与える。より大人に近づいて行く年なので、人から認められたことが有用感につながる。自分のすばらしさに気づける環境を整えていけるとよい。
- ⑤ 中学生も地域の活動に出て行くと、もっとほめてもらえる経験が増えるのではないか。
- ⑥ プラス思考で子どもたちを育てていくと、自然にやる気は出てくると感じている。母親がほめることが何よりも大切だと考える。

2 生活習慣がしっかりしていると、心身がしっかり育つ。

- ① 朝から体を動かすと、給食をしっかり食べ、次の日も学校に行きたくなるというよいサイクルになる。
- ② バランスのよい朝食がとれるように、親自身がどのように変わっていくかなくてはいけないか等、家庭に働きかけていくことが必要である。朝食と子どもの活動というのは大きく関係している。
- ③ 食卓の日を学校もフル活用するとよい。給食のおかげで好き嫌いが減ったとか、家族で団らんしながら食べるようになったという声も保護者から聞かれる。

3 小学校と中学校が知・徳・体で連携していくとよい。

- ① 朝読書と朝運動、これらをうまく組み合わせるとよい効果が出る。
- ② 体だけでなく心もたくましく育てていく必要がある。
- ③ 中学校では体育の質が変わる。5、6年生が中学校の体育と連携して質を高めていくとよい。

<天笠座長より>

自尊感情を育てるには、「役に立つ」という言葉がキーワードになっている。もう一つは「学校プラス思考か」という点だと考える。

近所の人とのつながりの中で自分のよいところを見つけることが大切である。周りの人とのつながりが無い中で自分をより見つめて、よいところを見つけているかが問題になる。富士宮の子どもは周りの人とつながっていると考えられる。

「たくましい」という言葉が、各学校の教育活動の中にどれだけ位置付けているのか、課題としてあげたい。たくましいとは、体だけでなく、むしろ心のたくましさのことである。

情緒の安定はどのように図られるか。給食の時間が短い。ゆったりとした環境で食べると子どもたちの心は落ち着くのではないかと考えられる。